にいつの教師の目

見落とすまい 小さな生活のくずれを

◆小中学校合同研修会より◆

子どもたちの「生活のくずれ」などと言われ出したのは、ほんのここ数年のことに過ぎません。一体、「生活のくずれ」とはどんなことをいうのでしょうか。そして、それがどうして教師たちの研究会や話し合いの中で真面目に論議される程に深刻な問題なのでしょうか。

ここにいくつかの子どもの傾向があります。

- 早寝早起きができない。
- テレビ中心の生活になっている。
- 物事に集中して取り組めない。
- 授業中、私語をし教師友人の話をちゃんと聞けない。
- 人の意見を真面目に聞けず、あざけ笑ったりひやかしたりする態度をとる。
- 正義が正義として通らなくなってきている。

このように、基本的な生活習慣そのものが乱れてきていると同時に、「人格のくずれ」といっていいものまでを含めて、「生活のくずれ」というふうに考えているわけです。自分が生活の主人公でなく、心も体もだらしなくなってきていることを強く感じるわけです。非行と言われるきざしとして、自分の生活をきちんと律することのできない、このような生活の実態があることを見逃すわけにはいきません。そして、それは何よりも勉強する力そのものの問題に大きく関係しているのです。

今や、これら子どもの生活の全体をおおう問題は、家庭・学校・地域の総ぐるみの知恵と努力と協力で克服されねばならない大切な課題なのではないでしょうか。子どもの中に、家庭・学校できちんとしつけ、育てなければならないのは何なのかを、その具体的な手だてをも含めて、今最も必要とされているのです。

すでにその第一歩はふみ出されつつあります。

外出のしつけを見直そう

巡回指導より

学校が休みのときは、子ども達はどこで遊んでいるのでしょうか。

冬休み中、各学校ではご父兄の協力を得て、子ども達が

○危ない場所での遊びや危ない遊びをしてはいないか。

○自転車の乗り方や道路の通り方で、問題の行動はないか。

○商店街をうろついたりゲーム等に夢中になってはいないか。

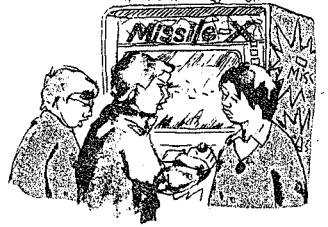
繁華街や校区内の危険区域を中心に、見てまわりました。

◆〈小学生〉

お正月でもあり、ゲーム場は親子づれでいっぱい、順番がくるまでしばらく待たなければなりませんでした。そんな中にあって、さっきからゲームに夢中になっている五・六年の男の子が二人、おりました。よくみかける顔とのこと、近づいて「学校は」「名前は」とたずねると、すらすらと答えてくれるのですが、それがみんな嘘でした。家の人にも友だちの所に行ってくるといって出てきたそうです。

◆〈中学生〉

中学生になりますと、ゲーム場などではあまり見かけなくなります。それは、生徒が自分の学校の先生が、巡回指導していることがわかると、その時間と場所とをさけて、時間をずらしたり、新潟市やその周辺地へ出かけたりするからです。見かけないからと安心してはおられません。他市町村で補導される場合が、最近はふえております。



◆もうすぐ春休みです。非行や問題行動の芽ばえる時期でもあります。

事例では、ゲーム場への出入りから、金品の持ち出し等の非行にはしる場合が多いようです。どこのご家庭でも、もう一度、わが子の外出についてのしつけを見直して下さい。つまり、外出の時の学校のきまりを守らせることや、外出の内容と必要な時間をいわせる習慣をつけさせることです。そして、誘惑に負けない心の強い子を育てましょう。

夏休みも終わる、昨年八月二十五日・二十六日、市内中学校生徒会役員の交流会は市民会館で開かれました。これはお互いの学校の生徒会活動の問題点を話し合いながら、各学校間の友情親睦を、はかるために初めて行われたものです。以下その時の様子をお知らせします。

二十五日午後、受付、開会のあと、まず県立青少年研修センター研修課長荒木快英先生のレクリエーションの指導がありました。まだお互い固さのとれないなか、あいさつから始まり、拍手、声の大切さを説きながら、歌やゲームに引きこんでいきます。時間のたつのを忘れてしまう程でした。

最後に「リーダーは声を出し、勇気をもって率先しなければなりません。」としめくくりました。

休憩、夕食のあと、各学校の生徒会活動の様子を、互いに語りあいました。特に一学期は、いくつかの学校で非行もあったことから、最初は緊張した雰囲気でした。この中で、

○校紀委員、週番が身なり、服装のチェックをする。

○生徒会の方針で暴力や非行をなくす訴えをする。

○目安箱によって広く意見を求める。

○全校朝会を全校合唱とともにはじめる。

などの活動が紹介されました。どの学校でも、服装、身なり、不用なものの持ちこみ、落書き、おしゃべりなど、きまり規律の乱れに困っていました。特に非行問題のある学校では、生徒会役員の力で何ができるのか、リーダー達の悩みは大きいようでした。九時すぎに終わり、班会議の後、十時、引率の先生方も一緒に館内に宿泊しました。

翌朝五時半起床、食事当番は栄養士さんの指導で朝食づくり、他の生徒はそうじ、ラジオ体操。早起きは苦手なのか、みんな眠そうでした。

八時三十分、「市長と語る会」がもたれました。はじめ「中学生に望むこと」と題して、三十分程話がありました。物のない時代で育った自分のおいたちと現在を比較しながら「どんな状況の時代であっても、自ら判断できる人間になってください。」と語りかけ、さらに、自分自身を鍛える、他人の良さを学ぶ、協力しあう、がまんすることの大切さを知る、自分を大切にするなどをあげられました。その後、生徒から市長に対して質問が出されました。中学生を市長はどう見ているか、中学校の統廃合はいつ行われるのか、校則などにきびしすぎる面がある等々。市長からそれぞれていねいな回答があり、最後に「生徒会活動は役員の態度が大きな影響を与えます。皆さんが全校を引っぱっていくために、勇気と決断力をもってください。」と激励され、全日程を終わりました。

はじめての試みなので日程や内容に検討の余地はあるものの今後さらに発展させていってほしい、意義のある活動でした。

俺達の学校を俺達の手で

—市内中学校生徒会役員三十五名が集う—

今の子どもたちは

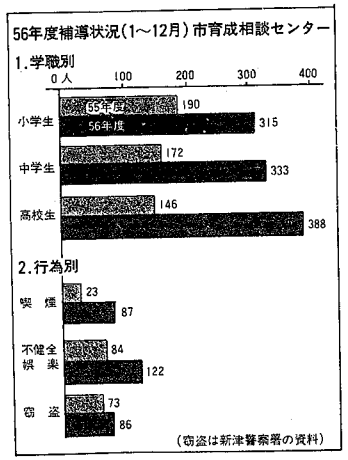
—市育成センターの目—

児童生徒の動きは街頭補導の件数だけでは言われないが小中高校とも、三〇〇件を超えています。

用もないのに市街やスーパー等をぶらぶらする者が多く、また児童生徒の活動範囲も拡がりを見せています。

遊びへの関心が高く、特にゲーム場における各種ゲームに人気が集まっています。一方ゲーム機が市街地から周辺の店へも進出し一層ゲームに対する関心を高めているようです。

グラフに見る窃盗の約六〇%が万引でその動機は殆どがいわゆる遊び型であって、これに対する関係者の対応がのぞまれます。

最近大きな特色として非行における女子の存在があげられます。

女子は正義感が強く男子のつっぱりや良くない行為に対して抑制する力があったと思います。最近はむしろ女子があおっている傾向があります。このことが中高校生のつっぱりに拍車をかけているのではないかと見うけられます。